データ抽出：医事・健診
コメント作成：画像診断科

画像レポートの翌診療日までの作成率

目的

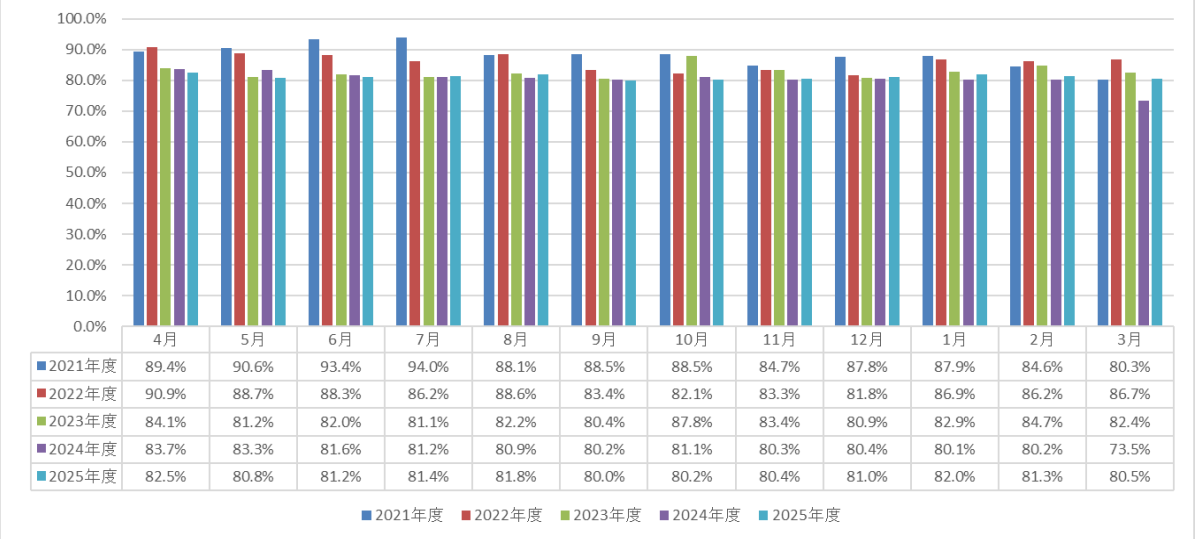
画像診断管理加算2に係る施設基準の要件を満たしていることの確認。

分母

総撮影数

分子

翌診療日読影数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	89.4%	90.6%	93.4%	94.0%	88.1%	88.5%	88.5%	84.7%	87.8%	87.9%	84.6%	80.3%
2022年度	90.9%	88.7%	88.3%	86.2%	88.6%	83.4%	82.1%	83.3%	81.8%	86.9%	86.2%	86.7%
2023年度	84.1%	81.2%	82.0%	81.1%	82.2%	80.4%	87.8%	83.4%	80.9%	82.9%	84.7%	82.4%
2024年度	83.7%	83.3%	81.6%	81.2%	80.9%	80.2%	81.1%	80.3%	80.4%	80.1%	80.2%	73.5%
2025年度	82.5%	80.8%	81.2%	81.4%	81.8%	80.0%	80.2%	80.4%	81.0%	82.0%	81.3%	80.5%

データ抽出内容

「画像診断管理加算２」に係る施設基準の要件を満たしていることの確認
※施設基準
核医学診断およびコンピューター断層診断のうち、少なくとも8割以上の読影結果が、画像診断を専ら担当する医師により、遅くとも撮影日の翌診療日（翌営業日）までに主治医に報告されていること

データ分析コメント

＜伊勢原付属病院の事情＞
全国の大学病院の中でCT5台、MRI6台、核医学装置4台を設置し稼動している病院は極めて少ない状況です。しかも当日外来予約なしで急ぎの検査を受け入れ、県内屈指の三次救急施設として、休日、夜間にも多数の検査が行われている施設はほとんどありません。また、上記以外の検査であるX線TV造影検査、血管撮影IVR検査、乳房撮影等の単純撮影等の検査などの件数も多いのが特徴です。一方、この業務を実施する画像診断医数の慢性的な不足が業務を遂行するうえで問題になっています。

＜働き方改革と今後の目標について＞
「画像管理加算2」については翌診療日までの読影率で評価されますが、休診日明けは未読影の画像レポートが増加し、読影率低下の原因となります。休診日が続く場合には適宜読影のため出勤し、休日明けの読影負担を軽減する形をとっています。今後働き方改革のために残業時間が多い医師についての対策が求められていますが、当科では残業時間が多い医師の読影にかなり大きく依存している部分があり、一部非常勤医師にも読影の補助をお願いしております。それでも年々増加する検査数に対応するために残業時間を減少させることが決して容易ではない状況となっています。
引き続きの検討課題となりますが、翌診療日までの読影率80%以上を維持し、最終的な読影率が100%に達するまでの期間をできるだけ短縮することが業務目標となります。